

学びをあむ（4年次）

- ・新領域「てつがく創造活動」を中核とする教育課程の開発

お茶の水女子大学附属小学校

第85回 教育実際指導研究会（オンライン開催）

2023年2月18日（土）

全体提案

研究テーマ『学びをあむ』

“学びをあむ”教育課程と
新領域「てつがく創造活動」の構想

新領域「てつがく創造活動」の運用

“学びをあむ”カリキュラムの課題

今後に向けて

全体提案

研究テーマ『学びをあむ』

“学びをあむ”教育課程と
新領域「てつがく創造活動」の構想

新領域「てつがく創造活動」の運用

“学びをあむ”カリキュラムの課題

今後に向けて

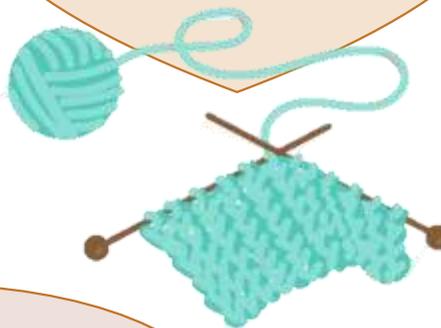
研究テーマ 「学びをあむ」

「編む」

自分の思いをもとにしながら
それを形として創り出してい
くこと



自分の思い



ほぐして編み直せる
柔軟性

しなやかさ

つよさ

研究テーマ 「学びをあむ」

「学びをあむ」

自分の思いを大切にして
様々なひと・もの・ことと関わりながら
新たなものを創り出す

自「てつがくする」

しなやかさと
つよさをもつ

民し

「何を学んだのか」

「何を実現したいのか」

「どのように学びを進めたらよいのか」

学びをあみ直しながら確かなものへ



全体提案

研究テーマ『学びをあむ』

“学びをあむ”教育課程と
新領域「てつがく創造活動」の構想

新領域「てつがく創造活動」の運用

“学びをあむ”カリキュラムの課題

今後に向けて

これまでの研究

新領域「てつがく創造活動」

1975 –

「創造活動」の時間

2012 –

サークル対話・計画表

2015 – 2018

新教科「てつがく」の創設

これまでの研究

新領域「てつがく創造活動」

1975 – 「創造活動」の時間

2012 – サークル対話・計画表

2015 – 2018 新教科「てつがく」の創設

2019 – 新領域「てつがく創造活動」の創設
文部科学省研究開発学校の指定

新領域 「てつがく創造活動」

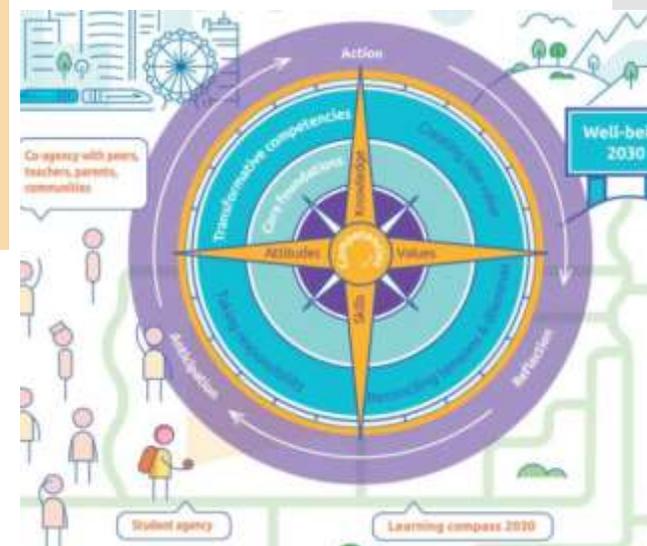
研究開発課題

社会の変化と主体的に向き合う市民の育成

自ら学びを構想し主体的に学ぶ
新領域「てつがく創造活動」

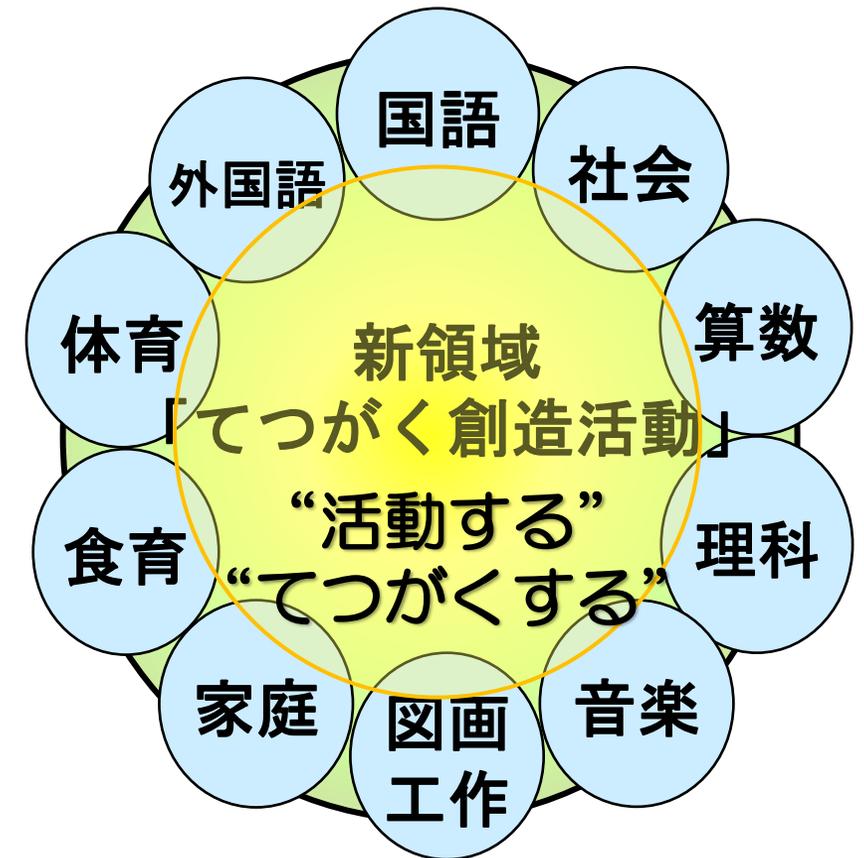
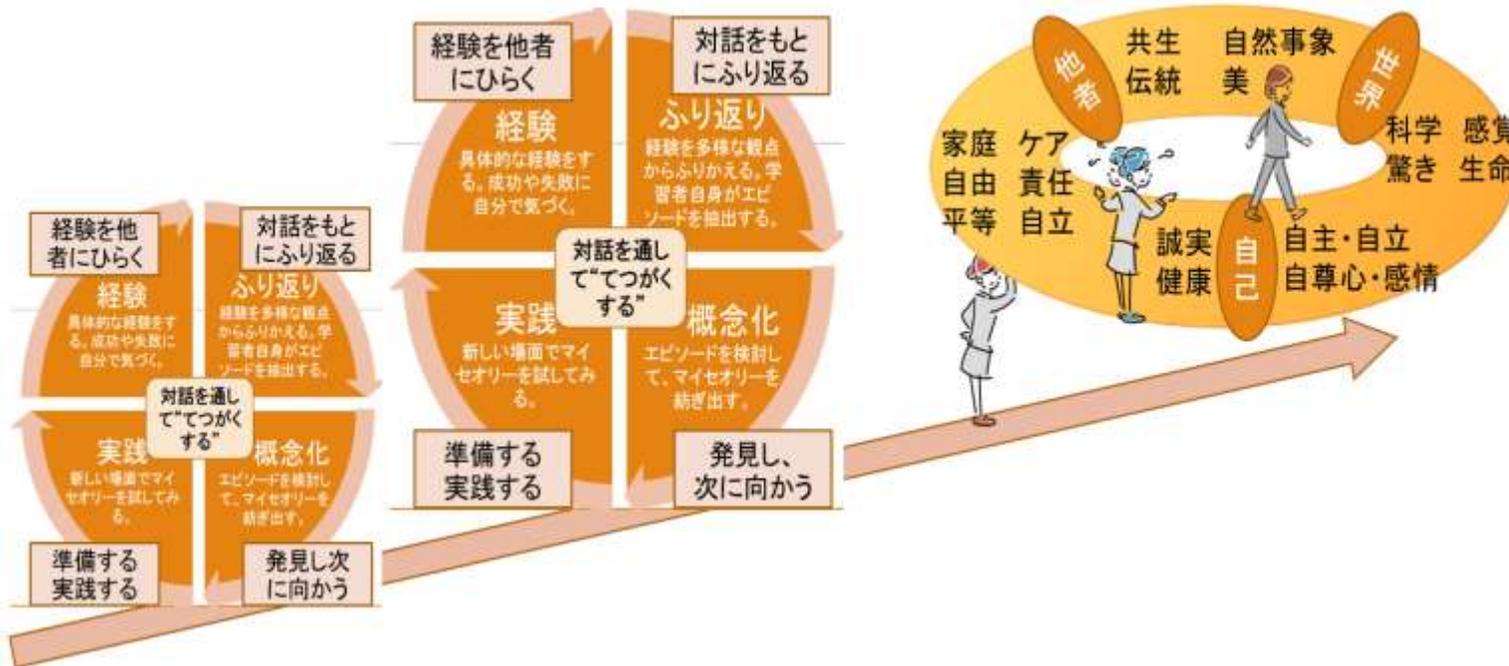
メタ認知スキル

社会情意的スキル



新領域 「てつがく創造活動」

“学びをあむ”教育課程と 新領域「てつがく創造活動」の構想



新領域「てつがく創造活動」を
中核とする「学びをあむ」教育過程イメージ

新領域 「てつがく創造活動」

育まれる資質・能力

メタ認知スキル
meta-cognitive skills

自分(自分たち)の考えや
行為を立ち止まって省察
し、調整する資質・能力

社会情意的スキル※
social & emotional skills

自分の思いと向き合い、他者と
協働しながら、構想した学びを
進めていく力といった、主体的
に探究していく際に働く資質・
能力

全体提案

研究テーマ『学びをあむ』

“学びをあむ”教育課程と
新領域「てつがく創造活動」の構想

新領域「てつがく創造活動」の運用

“学びをあむ”カリキュラムの課題

今後に向けて

新領域
「てつがく創造活動」

「てつがく」+「プロジェクト型活動」

子どもの興味・関心

体験などを通して
個々または協働的に探究

問いを立てて自明と思われ
る価値や事柄について探究

プロジェクト型活動

ふり返し

次の学びに生かす

てつがく

経験から学ぶ

新領域 「てつがく創造活動」

活動時間

	月	火	水	木	金
5 (40分)					てつがく創造活動
6 (60分)	てつがく創造活動		てつがく創造活動		てつがく創造活動

1,2年生「みがく」の時間

「てつがく創造活動」につながる学びとして、サークル対話や計画表にもとづく学習、プロジェクト型の学びを行う

新領域 「てつがく創造活動」

「てつがく創造活動」の特徴

自ら学びを構想し，他者と関わりながら主体的に探究し学ぶ領域

① 個のテーマ設定と具体的経験を重んじる

② 反省的思考を働かせて次の学びに生かす

③ てつがくすることを通して自己を見つめる

新領域 「てつがく創造活動」

特徴① 個のテーマ設定と
具体的経験を重んじる

一人ひとりの興味・関心や疑問が出発点

活動をデザインする主体は子ども自身



植物栽培・動物・生物保護・プランクトン
科学実験・ロケット&車・ピタゴラスイッチ
DIY・折り紙・紙ものづくりと技術・ダンス・物語キヤップ
紙ものづくりと技術・ダンス・物語キヤップ
スホ
環境SDG's・電車研究・キャラクター・医療
研究・和菓子研究・クイズ・謎とき・映画作

**多様な興味が複合する場に
新しい学びの文化が生成**

新領域 「てつがく創造活動」

特徴① 個のテーマ設定と 具体的経験を重んじる

5年生プロジェクト型活動



- 折り紙PJの取組を紹介
- ・千羽鶴からスタートしたPJ
 - ・ガチャPJとのコラボ
 - ・幼稚園に折り紙を教えに行く



新領域 「てつがく創造活動」



特徴② 反省的思考を 次の学

科学実験プロジェクト 経過報告書

- ・ゴール
水ロケット(ペットボトルロケット)を作り、それを動力とした車を作る。
 - ・これまでの活動
水ロケットを作り発射実験を成功させた。発射台を作りたい
 - ・夏休みの計画
1学期の結果・わかったことをノートにまとめる。車を走らせる仕組みを考えて試してみる。夏休み明けに試したものを持ってくる。
- 現在の問題点
- ・車を走らせる仕組みを考えること
 - ・車にペットボトルロケットをどうつけるか

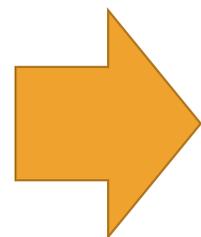


新領域 「てつがく創造活動」

特徴③ てつがくすることを通して 自己を見つめる

3年生プロジェクト型活動

自由な活動
主体的な取組
↓
揉め事の増加



ルールは何のため？

守らない人がいたら？

納得できないルール

自分と
他者の
考え方や
感じ方の
違いに
気づく



きちんと片付けを
してくれない！

なぜそう考えた
のかな？



新領域

「てつがく創造活動」

「てつがく創造活動」を通して育まれる メタ認知スキルと社会情意的スキル

メタ認知スキル優勢

社会情意的スキル優勢

目標の達成

経験知と概念形成

知的性向

感情コントロール

他者との協働

イメージを描く

没頭する

未知のものを
面白がる

自分を見つめる

違いを感じる

見通しがもてる

体験を通して
実感する

問いをもつ

失敗を認める

想いに寄り添う

既習を活かす

繰り返しやってみる

前向きになる

出来事を捉え直す

考えを取り入れる

ふり返し修正する

変化に気づく

夢中になる

自分を認める

助けを求める

諦めず最後まで
仕上げる

問いを追求する

一緒にやってみる

納得のいく
自己決定をする

折り合いをつける

必要感に迫られる

ふり返し価値づける

目標を書き替える

自分達の活動に
責任をもつ

全体提案

研究テーマ『学びをあむ』

“学びをあむ”教育課程と
新領域「てつがく創造活動」の構想

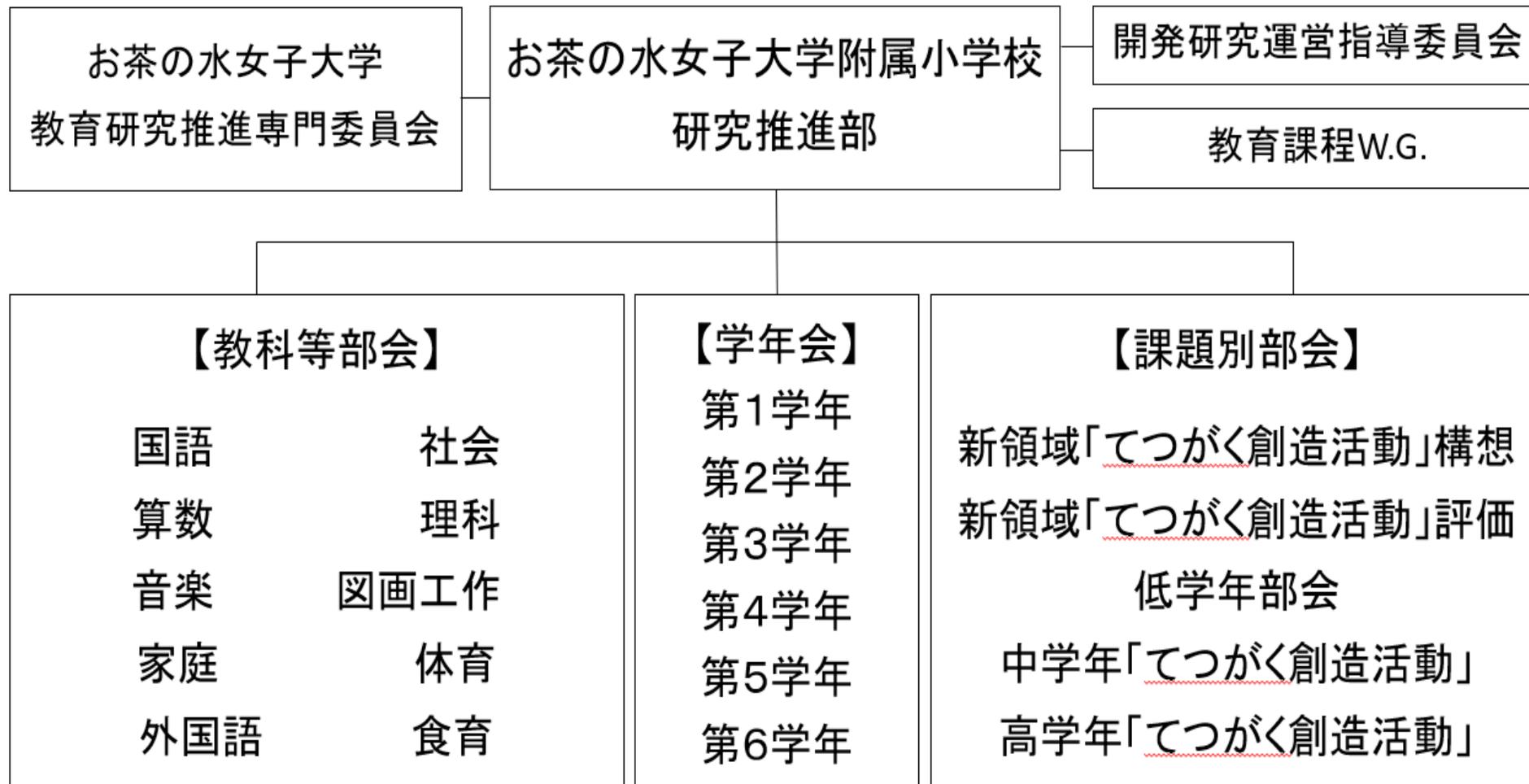
新領域「てつがく創造活動」の運用

“学びをあむ”カリキュラムの課題

今後に向けて

今年度の課題

研究組織



今年度の課題

4つの課題

- ① “学びをあむ” 子どもを育てる教師の在り方
- ② 子どもたちの学びの具体をみとり共有する
- ③ 経験を重ねながらその質を高める姿を整理する
- ④ メタ認知スキル・社会情意的スキルの具体を整理する

今年度の課題

① “学びをあむ”子どもを育てる 教師の在り方

鹿毛雅治(2021) 校内講演会より “てつがく創造活動” における教師の役割

① コーディネーター

学び合う環境を整備する

「知情意」が一体化したような場
「学びに引き込む場」を創っていく

③ ナビゲーター

深い学びに誘い込む

特に市民性の教育の場合、この役割は重要

② ファシリテーター

学びを促進する

活動で起きる様々な出来事に対し
その都度判断しながら働きかける

④ デザイナー

計画と具体化をする

子どもに委ねるが教師はビジョン
をもちつつ活動に関わる

今年度の課題

② 子どもたちの学びの具体を みとり共有する

A

教師が日常的に
記録を貯めていく



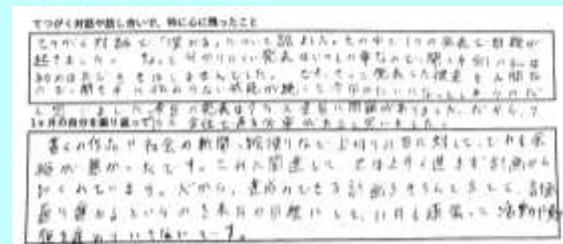
B

出来事の意味を
言語化し、
他者と共有する



C

子ども自身が
活動を記録する



今年度の課題

③ 経験を重ねながらその質を高める姿を整理する



つくって
仕上げる



企画して
提案する

調べて
まとめる

相互作用的に高まっていく



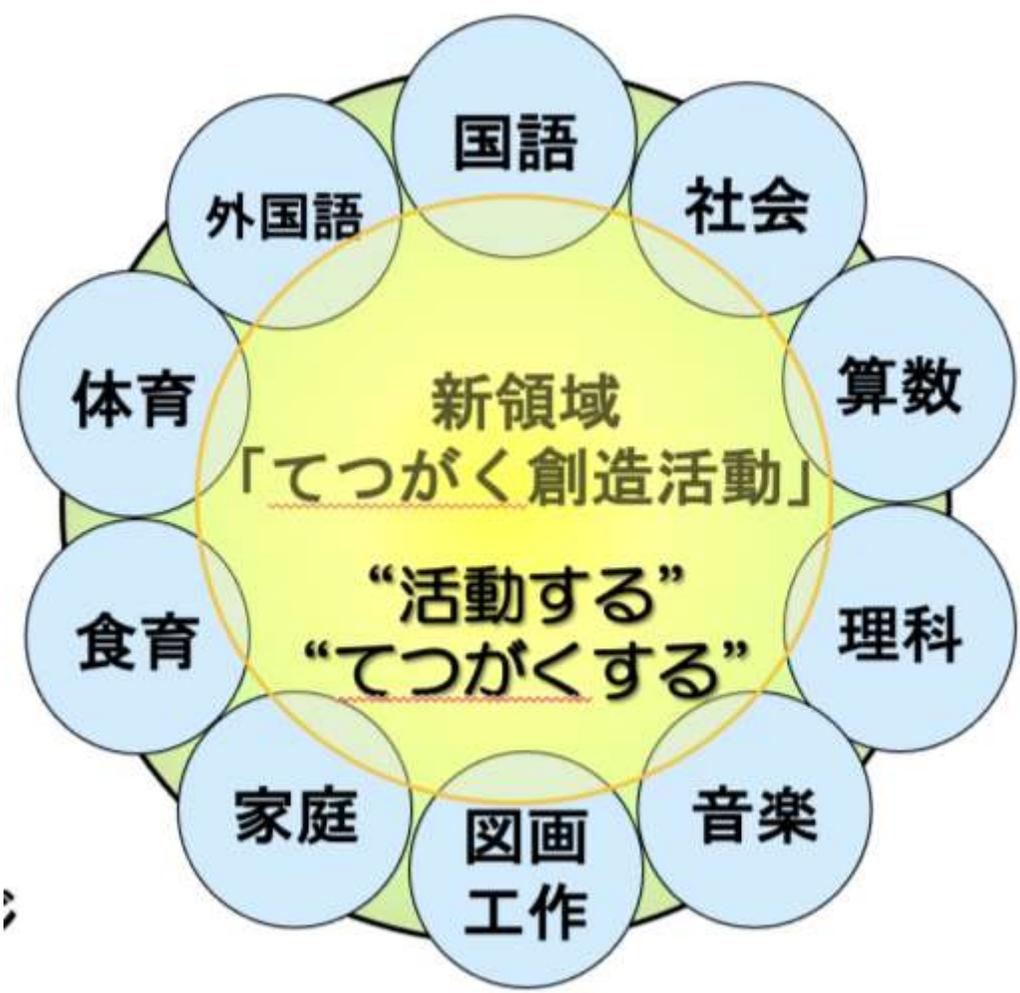
体験して
上達する



表現して
伝える

今年度の課題

④ メタ認知スキル・ 社会情意的スキルを整理する



自分のことばや想いを大事にする
他者のことばや想いを大事にする

他者の批判や疑問に対して応答する
異なる意見に耳を傾け
参考になることを考える

外国と日本/日本語との違いから捉え直す
世界についてもっと知ろうとする

外国語

国語

社会

からだで感じたことをふり返る
新たな挑戦課題を
生み出し楽しむ

体育

立ち止まる
問いをもつ 修正する

算数

吟味し、よりよくする
よさや価値を見つめる

苦手なものに
少しずつ向き合う

食育

「てつがく創造活動」
やってみる よいものを選ぶ
“てつがくする”

理科

結果を総合的に考え、
結論を導出しようとする
予想や取り組みが間違っ
ても素直に認められる

自分の生活から課題を見出す
みんなのためにできることを
考えて実行する

家庭

図画
工作

音楽

自分が音楽することを楽しむ
仲間とともに創る過程で悩み・発見する

つくり、つくり変え、持続する自己調整力をもつ
材料対話や行為を通して造形的なイメージつかむ

全体提案

研究テーマ『学びをあむ』

“学びをあむ”教育課程と
新領域「てつがく創造活動」の構想

新領域「てつがく創造活動」の運用

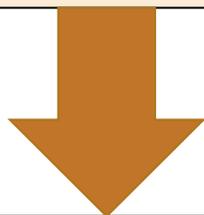
“学びをあむ”カリキュラムの課題

今後に向けて

今後に向けて

教師自身が“てつがくする”こと

「学びをあむ」教育課程の内実を共有し更新するために



教師自身のビジョンと見とりをもとに
子どもの姿を通して“てつがくする”ことが大切

学びをあむ（4年次）

新領域「てつがく創造活動」を中核とする教育課程の開発

